

## ④3 真鶴半島の森 人が作り上げた巨木林と海浜性生物を同時に楽しむ

【概要】御林（おはやし）として 300 年以上保護されてきたクロマツとクスノキの巨木を中心とした森は、林床も明るくとても快適な散策路となっている。海に囲まれているためスカシユリやイソギクなどの海浜性植物、カモメ類を中心とした海鳥、磯には珍しいウメボシイソギンチャクなど、見どころ豊富である。

### 【森林の特徴と見所・歴史文化】

真鶴半島はこの地域における噴火活動によって形成された火山地形で、海岸は岩がゴロゴロし切り立っている。江戸時代の 1672 年、当時カヤ原だった岬に、小田原藩が 3 年をかけて松苗を植林した。以来 300 年以上にわたり、人が管理し、利用し、大切に保護してきた林である。標高 20m 程度から 96m の灯明山にかけて御林が広がっているが、この標高の高さが潮風の影響を幾分和らげ、また、潮に強いクロマツに守られてクスノキやスダジイ、タブノキ等の常緑樹が立派に生育したものと思われる。クロマツをマツノザイセンチュウ病から守るため、薬剤を松の樹幹に注入して防除している。

クロマツ、クスノキは用材として、また松脂、松根油、樟脳が取れる資源として活用され、戦後まで皇室財産（御料林）となり、昭和 26 年（1951）以降は国有林となっている。また明治 37 年（1904）には魚つき保安林にも指定されている。

真鶴は小松石の産地としても名高い。小松石の名の由来は真鶴の小松山からこの石が取れたことによる。安山岩で、高級墓石や城の石垣に使われた。源頼朝一族の墓石、美空ひばりの墓石、小田原城や江戸城の石垣、台場の土台も小松石。

真鶴マリーナの近くには 源頼朝が治承 4 年（1180）8 月、石橋山の戦いに敗れたとき、この地にあった岩屋に一時隠れて難を逃れたと言われている「ししどのいわや」がある。

ハマユウ（浜木綿、正式和名はハマオモト）は真鶴町の花に指定されており、この辺りから三浦半島は北限に近い生育地とされる。

真鶴半島は歴史に富んだ巨木林と海浜性生物を同時に楽しめる、自然愛好者にとっては嬉しいスポットと言える。

### 【コース紹介】

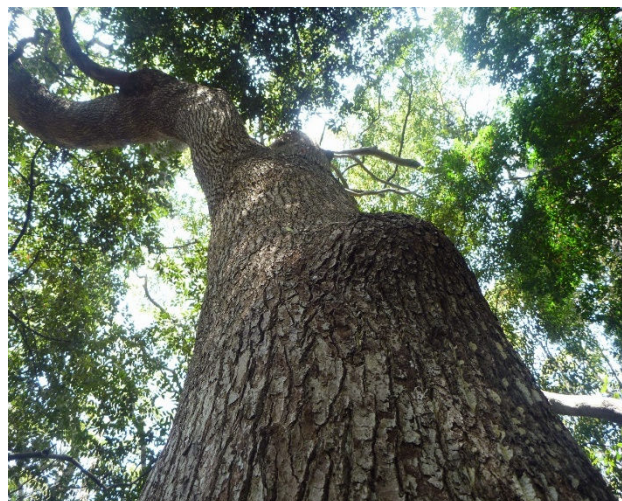
中川一政美術館隣接の駐車場①向かいに入り口がある。直ぐにクロマツとクスノキの巨木林に入り、緩やかな登り道を 10 分ほど行くと十字路②に着く。ここから左手に入り灯明山③を往復する。灯明山はかつてここに灯明をともし、岬の近くを通る船の目印としたと言われる。十字路に戻ってから真直ぐに進み、番場浦④をへて三石海岸⑤へと進む。実のついたオオバヤシャブシを額縁として三石を望む場所はこのコース随一の絶景で撮影スポットとなっている。ケーブル真鶴から海岸へ降りる道のところから、ウメボシイソギンチャクが見られるポイント⑥まで往復する。ここはゴロゴロした岩の間を歩くので注意が必要。ウメボシイソギンチャクは潮の状況によって開いていないこともある。海岸からケーブル真鶴⑦への登りは階段で 60m 程あり、ちょっときつい。駐車場を通過して再び御林に入り⑧、十字路を経て中川一政美術館駐車場に戻る。







三ツ石を望む



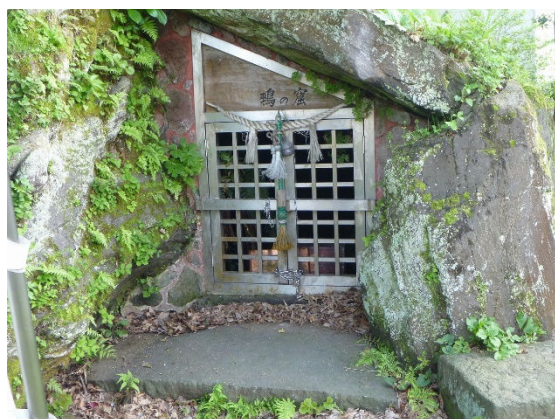
クスノキの巨木



ウメボシイソギンチャク



小松石



ししどのいわや

#### 【一言メモ】

「魚つき保安林」とは（ManazuruNavi より引用）  
文字通り、魚が寄り付く森林であることから、そう  
呼ばれている。その理由については、

1. 木々の枝から海面落ちる虫を求めて魚が集まる
2. 樹木の陰を魚が好んでいるから
3. 半島から染み出た栄養豊富で温度が一定である地下水にプランクトンが集まり、それを求めて魚が集まる、などなど、諸説が考えられていますが、科学的な解明は未だ結論が出ていないのが実情である。

真鶴の人々は、古くから真鶴半島を魚が集まる森として大切に保護し、美しい森には多くの魚が集まっている。

#### コースで見られる主な植物等

クロマツ、クスノキ、スダジイ、タブノキ、オオバヤシャブシ、スカシユリ、ハマヒルガオ、イソギク、ハマダイコン、ハマエンドウ、ナツトウダイ、ハマゴウ、ツルナ、ハマカンゾウ、ハマユウ、カナワラビ、ジュウモンジシダ、リョウメンシダ、ホシダ、イワガネゼンマイほか

#### 野外講座企画のための情報

FS 指数：2B 水平距離：3.7km 登高163m  
トイレ：中川一政美術館隣接の駐車場、ケープ真鶴  
駐車場

昼食場所候補：海岸付近、ケープ真鶴周辺